

道徳学習指導案

指導者 海田町立海田小学校

2年担任

- 1 日時 平成29年6月28日(水)第5校時
- 2 学年 第2学年(男子13名 女子11名 24名)
- 3 場所 海田小学校 2年組教室
- 4 主題名 誰に対しても (内容項目 C 公正, 公平, 社会正義)
- 5 本時のねらい 「うさぎは誰の洋服を先に作ればよいか」を考えることを通して, 好き嫌いや損得にこだわらず, 公正, 公平に判断しようとする態度を育てる。
- 6 教材名 「森のしたてやさん(一部改作)」
出典(「子どもが考え, 議論する問題解決型の道徳授業」図書文化社)

7 教材について

- 本教材の道徳的課題は, 洋服屋のうさぎが3匹の動物(さる, きつね, こぐま)に洋服の仕立てを頼まれたときに, 誰の洋服を先に作るべきか悩むところである。自分より強い立場の子や仲の良い子など, 相手との関係で自分の行動が左右されてしまう面のある低学年の児童にとって, 公平な言動について考える機会をもつことは有意義なことであると考えられる。本教材は, 自分の都合の良し悪しで物事の判断を決めるのではなく, 相手の立場に立って, 公正, 公平な態度で決めることが大切だということに気付かせることのできる教材である。理由によっては, どれを選んでも, 3人のことを思って最善の結果を出したといえるため, 多様な価値観を児童から引き出すことに適した教材であるともいえる。
- 本学級の児童は, 道徳で, 登場人物の気持ちや自分ならどう行動するかといったことを考え, 協同的に学んできた。ほとんどの児童は, 道徳の学習は楽しく好きだと答えている。しかし, 自分の考えをもつことができにくい児童, 根拠を挙げて表現することが苦手な児童もいる。また, 協同的に学ぶ場面で, 自分の意見と友だちの意見を比べて発言する児童, 友達の意見を聞いて自分の意見が変容する児童は多いとはいえない。ほとんどの児童が, 休み時間に誘い合って, 楽しく外遊びをすることができる。しかし, その中で, 自分の感情や損得にこだわった言動をする児童がおり,トラブルも少なくない。やりたい遊びが異なったり読みたい本が重なったりしたときなど多数決やじゃんけん等で決定するのだが, その決定に納得がいかず, しばらく不満をかかえている児童もいる。自己中心性の強い2年生にとって, 公正, 公平に行動することは容易なことではない。本時の学習を通して, 利害に左右されず接することや, 自分のことではなく他者のことを考えて物事を選択するなどの道徳性を養いたい。
- 指導に当たっては, まず, 課題発見・解決学習となるよう, このお話の道徳的課題を児童自ら見つけるようにする。次に, 事前に条件や登場人物の性格を整理し, 誰の服を先に作るかを自己決定する根拠となる事柄を板書で視覚的に示し, 児童が主体的に考えることができるように準備する。そして, 協同的に学ぶ場面では, 発表を得意としない児童から発表させ受容することで, 発表したことに自己有用感をもたせるようにする。選んだ理由だけでなく, 一人を選んだら他の二人はどういうことになるか, 後回しにした二人にはどうやって断るのかも考えさせたい。また, 自分の考えを発表して終わるのではなく, 友達の意見に対してどう思うか議論させたい。最後に, 実生活の具体的場面に返して自分ならどうするかを, 理由をつけて考えさせたい。

8 学習の流れ（1時間目／全1時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） 主な発問（○），中心発問（◎），予想される児童の反応（・）	評価 (評価方法)
<p>1 課題意識を持つ。</p>	<p>◇身近な問題を提示し、ねらいとする道徳的価値への問いを持たせる。</p>	
<p>○順番はどうしても守らないといけないのでしょうか。 【守る】 ・抜かすのはよくない。 【守らない】 ・トイレが我慢できない人がいたら入れてあげる。</p>		
<p>2 教材「森のしたてやさん」の範読を聞いて内容を理解する。</p>	<p>◇登場人物の各々の事情や、うさぎとの関係を押さえ、問題点を明確にする。 ◇各々の事情を視覚的に提示することで、状況を把握しやすくし、うさぎの行動の根拠を、考えやすくする。 ・うさぎさんは1日に1着しか作らない。 ・さるさんは、明日の自分の誕生日会に着る服が欲しい。 ・意地悪なきつねさんは、明日のパーティーに着ていくおしゃれな服が欲しい。 ・親友のこぐまさんは、明日のピクニックに行くためにきつくない服が欲しい。 ◇児童から学習課題を出させるようにする。</p>	
<p>○うさぎさんは、なぜこまっているのでしょうか。 ・うさぎさんは1日に1着しか作れないのに、3人の人に頼まれてしまい誰の洋服を作ればよいかと困っています。</p>		
<p>3 うさぎさんは、だれの洋服を先に作ればよいかを話し合う。</p>	<p>◇「自分がうさぎさんならどうするか」と問い、自分事として考えさせる。 ◇話し合う前に、ワークシートにだれを先にするか自分の考えを書く時間をとる。早く書けた人は、断り方も考えるように指示する。 ◇話し合う前に、自分の考えをはっきりさせるためにネームプレートを黒板に貼らせる。 ◇なぜ、そう考えたのか理由を語らせることで、多様な価値観があることに気付かせる。</p>	
<p>◎うさぎさんは、さる、きつね、こぐまの中でだれの洋服を先に作ればよいでしょうか。 【さる】 ・頼まれた順番だから、さるの洋服を作る。 ・みんな明日までに欲しいわけだから、頼まれた順に作ったらみんなが納得すると思う。 【きつね】 ・きつねは怖いから先に作った方がいい。 ・きつねは、パーティーだから、ふつうの服ではいけない。 【こぐま】 ・こぐまは親友だから、先に作ってあげたい。 ・服がきついと遊べないから、先に作ってあげたい。</p>		
<p>◇「親友のこぐまを優先してあげなくていいのかな。」 「なぜ、1番に来た人からにするの。」 「親友だったらどうして1番にするの。」などの補助発問で揺さぶり、公正、公平に対する考えを深めるよう支援する。</p>		<p>・最善の方法を自分なりに考え、自分の考えを、理由をつけて表現することができる。</p>

○他の人たちにはどう断りますか。

- ・きつねさんがあなたたちに意地悪をしたらこわいので、きつねさんの服を先に作ります。さるさん、こぐまさん、ごめんなさい。
- ・こぐまさんは親友だから1番に作りたいのです。さるさん、きつねさん、ごめんなさい。
- ・こぐまさん、親友なら、最後まで許してくれるよね。
- ・3人とも、明日までに欲しいことが分かります。だから、順番に作ります。きつねさん、こぐまさんごめんなさい。
- ・最初にさるさんに頼まれたから、さるさんのを先に作ります。きつねさん、こぐまさん、ごめんなさい。
- ・さるさんは、明日、誕生日会です。新しい服がないと1番困ると思うから、さるさんのを作ります。

◇何人かの児童に役割演技をさせる。見ている児童には、自分の断り方と比べながら聞くようにさせる。また、その説明で納得できるか考えながら聞くようにさせる。

○友達の意見を聞いて、はじめの考えと変わった人は、だれのどんな意見で変わったかを教えてください。

- ・どの人も同じように、大事な理由があって、早く欲しいときは、順番にしたらいいと思いました。
- ・親友なら、最後になっても許してくれると思うし、パーティーは特別で、パーティーに来ていくおしゃれな服がないのはかわいそうだと思うから、きつねさんにしました。
- ・ピクニックに行くのに、服がきついと遊べなくてかわいそうだとおもうから、こぐまさんにしました。

4 導入で提示した課題

について話し合う。

○この絵を見てください。順番だったらおばあさんはすわれませんが、どうしますか。

- ・おばあさんや、おなかの大きい人がいたら席をゆずります。
- ・最初の絵のように、どうしても先にしてあげたほうがいい人がいたら先にしてあげたいです。

◇順番だから、といった理由だけではなく、ケースバイケースで、考えて決めることを大事だと感じるような例を提示する。

5 今日の振り返りをす

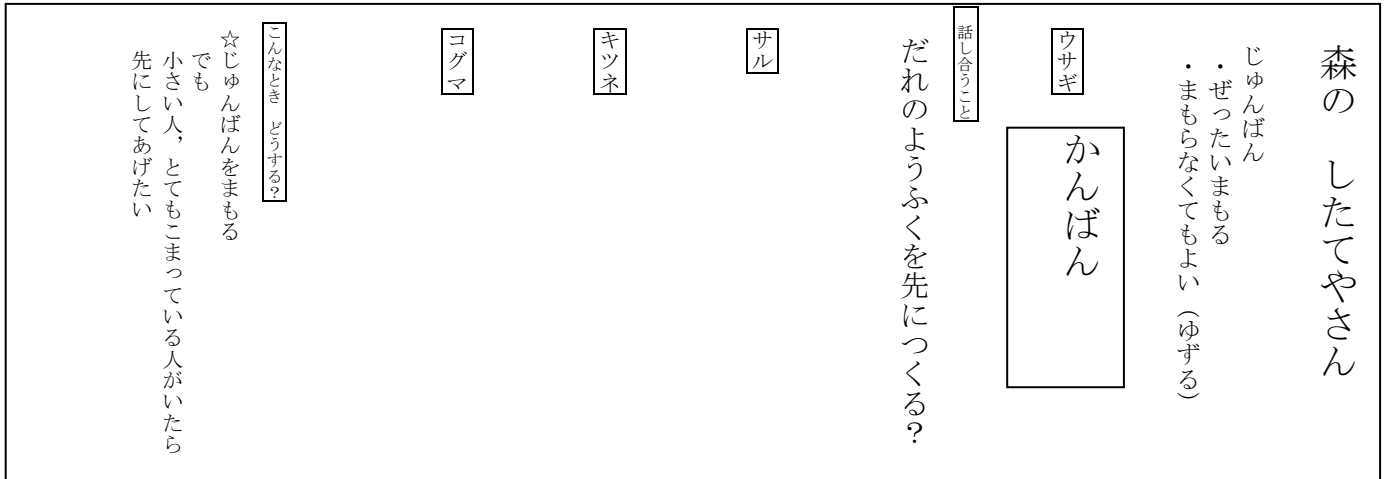
る。

児童の振り返りの例

- ・最初に来た人にしますと言うのが1番みんなが納得しやすい。
- ・特別な事情があるときはその人を優先するけど、みんな同じぐらい急ぐなら順番にする。
- ・自分と違う友達の色々な意見が聞けて、楽しかった。
- ・どうすることがいいかよく考えて発表することができた。
- ・好きな人を先にするのはおかしいと思った。
- ・お年寄りの人や大変そうな人がいたら席をゆずりたい。

◇考えを整理するために本時の振り返りをワークシートに書く時間をとる。

・好き嫌いや損得にこだわらず、他者のことを思って順番を決めようとする気持ちを持つことができる。



お話

森で洋服屋さんをはじめたうさぎさん。

お店の看板には 次のようなことが 書いてあります。

- ・心を込めて すてきな洋服を 仕立てます。
- ・1日 1着だけ 仕立てます。

ある日の朝、この洋服屋さんに 最初に さるさんが やってきました。

「はじめまして。森の洋服屋さんのうわさを聞いて やってきました。

明日は 私の誕生日なので、日頃 お世話になっている方々をまねいて 誕生日会をする予定にしています。でも、 ふさわしい服がありません。1日で服を作って下さると聞いてやってきました。今日中に ぜひ 私の服をつくってください。」

そう言うと、さるさんは うさぎさんの 返事も聞かず 店を出ていきました。

次に入ってきた きつねさんが言いました。

「おいっ うさぎ。明日は 仲間と 前から楽しみにしていたパーティーに行く。

何百人も来るパーティーだ。おれ様がめだつよう おしゃれして 行きたいんだ。すぐに おれの 服を作れ。わかったな。」

きつねさんは そう言うなり 出て行ってしまいました。

うさぎさんが、おそろしさに 震えあがっていると、最後に、親友のこぐまさんが 来ました。

「ねえねえ、明日 ピクニックに家族で行くんだけど、服がちょっときつかったんだ。だから、新しい服を作ってほしいんだ。お願い、ぼくのために どうか頼むよ。」

そういうと、こぐまさんは うちへ帰って行きました。

1日に、3件の注文を受けたうさぎさんは、すっかり 困ってしまいました。